

関連項目：教育活動プラン①、④

## 人とつながる喜びを味わう

### 目的

本校の児童は、素直であるが、自尊感情の面ではまだまだ不十分といえる児童が多く見られる。そこで、相互理解を通して自尊感情を高めることにした。

### 内容

#### ● なかよし班活動

他校でもよく取り組んでいる異学年交流で、本校では月2回～3回、業間運動の時間に一緒に遊ぶようにしている。

遊びは集合してから決めるが、あらかじめ6年生のほうで、低学年から高学年まで一緒に楽しめて、分担された場所でできそうな遊びを、数種類考え、案として持っておき、集合してからよい意見が出なかったら、出すようにしている。また、遊ぶ前に話し合いをする場合には、6年生が中心となり、男女や年齢差を考慮して、ハンデをつけるなど全員が楽しめる内容となるように指導している。

そのことにより、高学年には、自己有用感、責任感、他を思いやる気持ちを育てることができると考える。また、低学年、中学年には、高学年との活動を通して、学校への慣れ親しみや、愛校心、上級生へのあこがれの気持ちを持たせるとともに、自分が大事にされていることを実感するのではないかと考える。また5年生には、高学年としての在り方や、最高学年での目標の明示につながると考えられる。



#### ● ふれあいの時間

全校生が対象ではなく、学級が対象となる。学級の全員で遊ぶ時間を設定している。一週間に1回～2回、昼休みに遊ぶようにしている。

クラスの児童だから、遊んだことがあるようで、実際には遊んでいない児童もあるので、他者理解の入り口として、全員で一緒に遊び、自分のあまり知らない子についても新たな発見や、気づきが見られ、人間関係の改善にも役立つと考えた。

遊びは、必ず全員で決定する。他の人の意見を非難しない。また、他の人の体調にも考慮し、その子も楽しめるものとする。トラブルがあった時は、担任を含め、全員で必ず話し合い、次回の活動に生かせるようにする。



#### ● 人権意識を高めるための「なかよし集会」

人権意識を高めるために「なかよし集会」を設定している。6年では修学旅行を核として、クラス中の人間関係に全員が、目をそむけずしっかり自分のこととして考えられるように、班の分け方からバスの席、班行動の計画について話し合った。



### 成果

なかよし班活動で楽しく活動できた時は、高学年としての自己有用感が増し、低学年・中学年は、高学年を慕うようになり、なかよし班活動の時間以外にも5・6年の教室へ遊びに来るようになった。それぞれの役割の中で自尊感情が高まってきたことを実感している。またふれあいの時間では、クラスに目を向けるようになり、自分がしたいことでなく、調子の悪い子のことも意識するようになってきたことで、相互理解が深まり、自尊感情にもつながっている。

なかよし集会への取り組みの中で、人権意識が高まっている。6年では、修学旅行をきっかけとして、特に女子に人間関係の変化が見られ、まとまり感が高まるなどした。